

有機リン・ネオニコチノイド系農薬のヒトへの影響 —子どもの発達障害と急性・亜急性中毒被害の現状—

Health Effect of Organophosphate and Neonicotinoid Pesticides —Risk of Developmental Disorders and Acute/Subacute Toxicities—

日時: 2013年6月9日(日) 9:00~12:30 一般参加費 2,000円(学会参加者無料)

場所: 北里大学 白金キャンパス 薬学部コンベンションホール(東京都港区白金)

Kitasato University Shirokane Campus, Tokyo

今回、カナダより、Dr. Bouchardをお招きし、子どもの発達障害と農薬について国際シンポジウムを開催します。Dr. Bouchardは、米国ハーバード大学時代に、母親が妊娠中に、日常生活レベルの低用量でも有機リン系農薬を曝露すると、生まれた子どもが、注意欠陥/多動性障害(ADHD)、IQの低下、精神発達遅滞、行動異常を発症するリスクが上がるなど、子どもの脳発達に重大な悪影響を及ぼすことを明らかにした論文を発表した、注目の研究者です。

2010年論文発表当時、米国では、ニューヨークタイムズ、タイムズ、CNNなどで大きく紹介されました。

Organizers: Kumiko Taira & Yoichiro Kuroda (平久美子・黒田洋一郎)

9:00~9:20 Opening Remark

Research History of Organophosphate Pesticides, their Toxicities and Human Health Effects

日本における有機リン系殺虫剤研究の歴史と人体への毒性

■ **Satoshi Ishikawa** (北里大学名誉教授、第3回遠山椿吉記念食と環境の科学賞功労賞受賞)

9:20~12:20 Symposium

Human Exposure to Neonicotinoid Insecticides in Japan

日本人のネオニコチノイド曝露

■ **Kumiko Taira** (東京女子医科大学東医療センター)

Introduction of Developmental Disorders, Genes and Environment

自閉症・ADHDなど発達障害の概説(原因と発症メカニズム): 遺伝と環境の相互作用

■ **Yoichiro Kuroda** (環境脳神経科学情報センター)

Epidemiology of Pesticides and Developmental Disorders

農薬曝露と子どもの発達障害に関する疫学研究

■ **Maryse Bouchard** (University of Montreal)

Nicotine-like Effects of Neonicotinoids on Mammalian Brain Development

発達期脳における農薬ネオニコチノイドのニコチン様の影響

■ **Junko Kimura-Kuroda** (東京都医学総合研究所 脳発達・神経再生研究分野)

Special Comment

■ **Margot van de Bor** (Free University of Amsterdam)

12:20~12:30 Closing Remark

■ **Kou Sakabe** (東海大学、日本臨床環境医学会理事長)

The 22nd Annual Meeting of the Japan Society of Clinical Ecology

Chair: Tsutomu Sato, Nippon Dental University

HP: <http://www.ndu.ac.jp/~jsc22stevenstsite/>

E mail: jsc22stevenstsite@tky.ndu.ac.jp

主催: 第22回日本臨床環境医学会学術総会(大会長 佐藤勉 - 日本歯科大学)

お問い合わせ先: 第22回日本臨床環境医学会学術集会事務局 TEL/FAX: 03-3261-8815

住所: 日本歯科大学東京短期大学内 〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-3-16

